



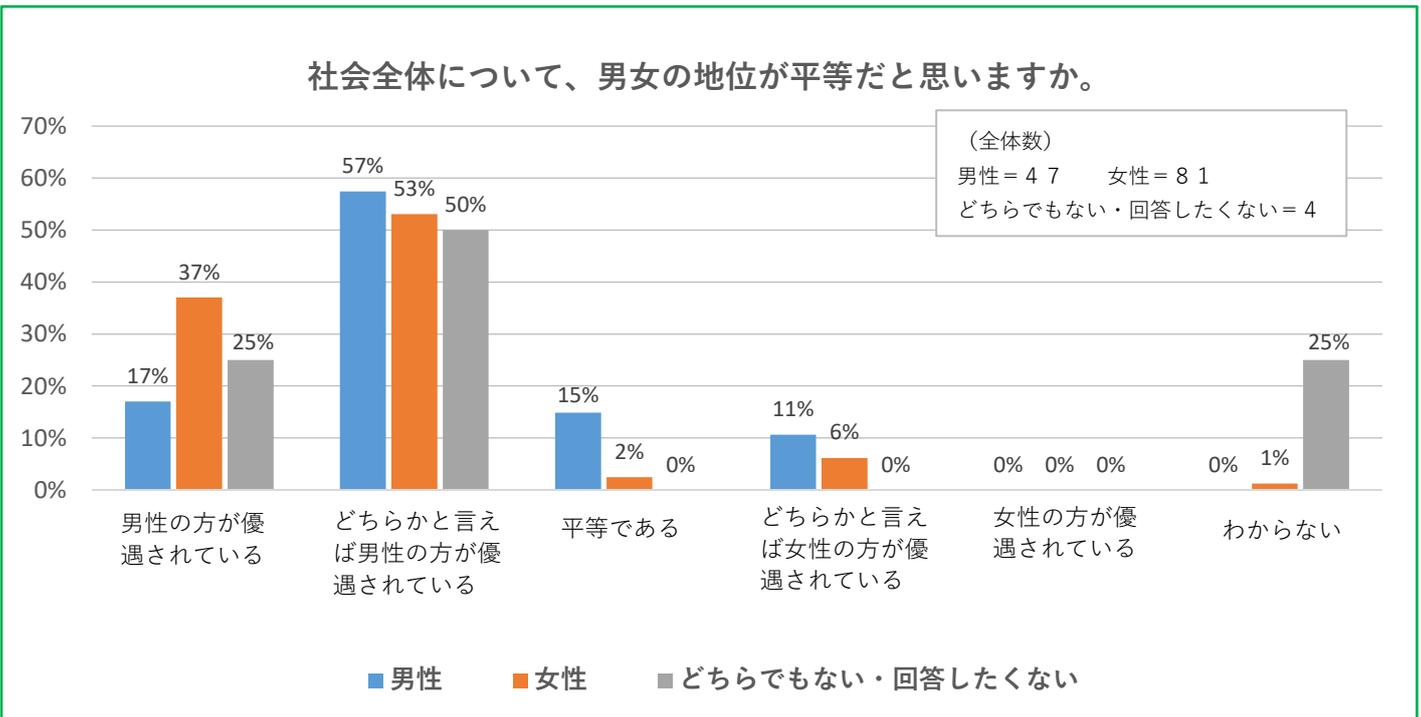
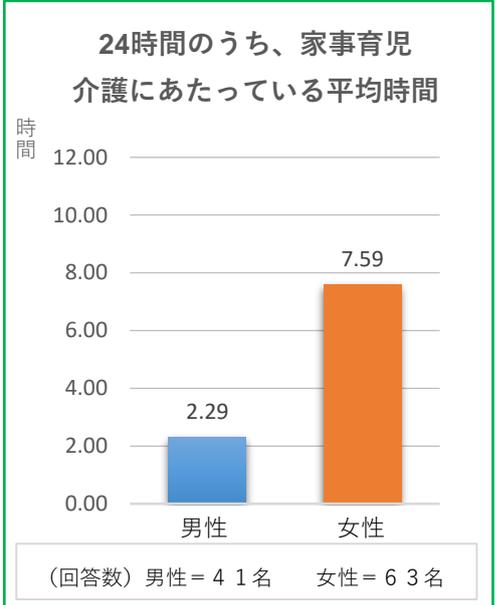
# ほほえみ

## 男女共同参画に関する市民意識調査アンケートについて

鎌ヶ谷市では男女共同参画を推進するため、令和3年に第3次鎌ヶ谷市男女共同参画計画を策定しました。市民の意識は今どうなっているか、男女共同参画に関する市民意識調査アンケートから見てみましょう。

回答者 132 人の属性は、男性 36%、女性 61%となっています。今回のアンケートには幅広い世代から回答があり、特に 30 代が 20%、40 代が 28%、50 代が 22%で全体の 70%を占めています。家事育児に 1 日当たりにかかる時間を男女別にみると、右の図でもわかるように、女性が男性を 3 倍以上上回る結果となりました。女性の家事育児負担の解消は今後の課題と言えます。

社会全体で男女の地位が平等であるかの意識調査（下の図参照）では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせて男性 74%、女性 90%を超えています。このような状況を改善するために男女共同参画に関する理解や認識を深める必要があります。





17の目標

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも、経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任、つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

皆さんは最近、SDGs（エスディーゼーズ）という言葉を目にするようになったと思いませんか？持続可能な開発目標と訳されていますが、私たちの生活とどんな関係があるのでしょうか？  
今号では、このSDGsについて一緒に考えたいと思います。

**SDGs はなぜ必要か？**

国連総会は、2015年から2030年までの15年間で世界が達成すべき17の目標と169のターゲット、いわゆるSDGs (Sustainable Development Goals) を採択しました。

このきっかけとなったのは、急速に進む地球温暖化による気候変動への危機感です。今、世界では人口が爆発的に増えて、人間の活動が地球環境に影響を及ぼし、自然災害の発生、飢餓や貧困、紛争・テロなど、様々な問題が起こっています。SDGsは、これらの課題に対応し、世界の社会、経済、環境がずっと続いていけるように、世界中が取り組むべき目標であり、「誰ひとり取り残さない」ことを原則としています。2030年まであと9年。私たちは一人ひとりがSDGsを理解し、生活の中でできることは何かを考え、未来を守るための取り組みを始めませんか。

**市民活動&男女共同参画とSDGs**



市民活動の分野は、環境や防災、人権、まちづくり、平和など多様です。SDGsの17の目標をみると、自分たちの活動がいくつかの目標とつながっていることに気づくことでしょう。また、男女共同参画は、目標5のジェンダー平等そのものですね。男性・女性という性別にとらわれることなく、誰もが能力を発揮でき、社会の一員としてともに参画することが、様々な課題解決に不可欠なこととは言ってもありません。

**目標5 ジェンダー平等を実現しよう**

男女平等を実現し、すべての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう

- ・すべての女性と女の子に対するあらゆる暴力、差別をなくす
- ・子どもの結婚、早すぎる結婚、強制的な結婚、女性器を刃物で切りとる慣習をなくす
- ・家庭内の子育て、介護や家事などは、お金が支払われる仕事と同じくらい大切な「仕事」であることを認めるようにする
- ・政治や経済や社会のなかで、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりできるようにする
- ・世界中だれもが同じように、性に関することや子どもを産むことに関する健康と権利が守られるようにする



# 今さら聞けない SDGs ~いつの間にかサステイナブル~

かがや市民活動・男女きりフェスタが、3/12・13 にオンラインで開催され、4 人の講師から SDGs に関する貴重なお話を伺いました。そのポイントをご紹介します。



## 谷津孝啓さん (ポノ株式会社取締役 COO)

### 「いまさら聞けない、でも知りたい! SDGs ってどんなこと」

経済優先、暮らしの向上を求めてきたこれまでの人類の活動が、気候変動や食糧危機、森林破壊、海洋汚染など様々な問題を引き起こしてきていることを受け、プラネタリーバウンダリー(地球の限界)への関心が急速に高まっている。

SDGs の背景には、「地球は危機の中にある」というメッセージが込められており、その不安を整理し、17 の目標と169の具体的な取り組みが示されている。17のリスクに対し、世界中のみんな学び、話し合い、準備をしていかなければ、持続可能な社会は不可能であり、みんなでいいことしよう! というキャンペーンなどでは全くない。SDGsは、市民の皆さんが、自己の経験やスキル、いろいろなつながりを生かして持続可能な社会を作っていくための知見である。

## 澤田直子さん (手賀沼まんだら 代表)

### 「親子で学ぶ環境/クラフトワークショップ」

手賀沼をフィールドに遊びをキーワードに活動している子どもと大人のグループの代表。自分自身、子育てをしながら家庭も PTA も地域活動もしたいと考え、3年前に退社。その後「手賀沼まんだら」を立ち上げた。

まんだらのキーワード「遊び」は、「自分から・満足するまで・楽しい」ということが活動のモチベーションとなっている。子どもたちにとって、学校外のコミュニティは異年齢の集まりであり、遊びながらチームワークやルール、理不尽を学んだり、大人の介入なしに成長している。

私たちに SDGs の課題解決のためという意識はなく、手賀沼流域の自然の中で、生き物観察、有機野菜栽培やサップに乗ってごみ拾い、ごみアートなど、遊びと一体化した多様な活動を通して、大人も子どもも楽しんでいたらいつの間にかサステイナブルになっている。皆さんの活動も、どこかで SDGs とつながっていたというようになって欲しいと思っている。

## 萩原なつ子さん (立教大学大学院教授)

### 「ジェンダーの視点で考える防災」

元宮城県庁の職員を経験し、東日本大震災後の復興にもかかわってきた。何もかも失った被災地が、やっと漁業も農業も再開できるまでになったということに感慨深いものがある。それは、日ごろから、被災地の男女が手を携え、取り組んできたからではないか。

地球環境に目を向けると、世界規模で温暖化が進んでいる。自然災害が多発し、日本は先進国の中で最も多くその影響を受け、毎年千人以上が亡くなっている。

阪神淡路大震災はじめ東日本大震災でも明らかになったのは、最も支援が必要な人に支援が届きにくく、これまで男性中心であった災害分野にも、女性の参画を推進する必要があるということである。

災害時のリスクに備えるためには、地域の誰もが災害時に的確な判断ができるよう、一人ひとりがリスクセンスを磨く学習をすること、自主防災組織等の地域コミュニティを活性化したり、地縁団体と NPO の協働を進めるなど、災害に強い地域づくりに取り組む必要がある。

## まち × 学生プロジェクト「持続可能な地域コミュニティ」

(横浜市六角橋自治連合会 森さん、神奈川大学学生 小倉さん、市六角橋地域ケアプラザ 原島さん)

平成 27 年秋に六角橋地域ケアプラザ主催の会議で、学生と地域の方々が話し合う意見交換会があり、「まち × 学生プロジェクト」発足のきっかけとなった。この地域は、神奈川大学、神社や商店街、保育園などもある街だが、異なる世代を超えたつながりはなく、それまでは大学とのかかわりもほとんどなかった。

このプロジェクトの目的は、学生と住民が「あいさつしあえる」「学生のアイデアを形にできる」「卒業後も戻ってきたい、住み続けたいまち」の3つである。活動の開始当初は人が集まらなかったが、毎月の定例会を夜の時間帯にしたり、交流会と情報交換会の2部構成にしたり、学生が司会を担当するなどの工夫をすることで、互いに顔の見える関係が築かれ、4年間で71回も開催された。この定例会を核に、大学・商店街・介護施設や市役所などもネットワークが広がり、地域と学生を繋ぐ4大イベント(六神祭、神大マルシェ、オレンジプロジェクト、キャンドルナイト)が実現した。また、活動のネックとなったコロナウィルス感染症の時には、学生を助けようという自治会や商店街の思いが繋がって、困っている学生465人に食事を配る活動が行われた。

まちづくりの基本は「やってみよう」「何とかしたい」という思いを共有することである。代が変わっても活動が続く(持続可能な活動)のためには、熱量のある人たちが継続して活動を担っていける仕組みづくりが必要だと思っている。



# はん おとう飯レシピ募集中！

応募締切  
5月31日(火)



「手早く、簡単に、リーズナブルな食材で、家の調味料を使う、後片付けは最後まで」  
の5つの心得がモットーの「おとう飯レシピ」を募集しています。

【応募資格】 市内在住・在勤の男性  
(年齢、既婚未婚、料理のプロアマは問いませんが、個人でお申し込みください)

【応募規定】 「5つの心得」に則った「おとう飯レシピ」。  
①レシピ名 ②材料(分量は原則1人分) ③材料に係る費用 ④調理手順 ⑤所要時間  
⑥PRポイントなど一言 ⑦年齢 ⑧連絡先 ⑨住所(市外在住で本市内勤務の方は勤務  
先名も併せて記載) ⑩氏名(レシピ紹介でハンドルネームを希望する場合は併せて記載)

【応募方法】 男女共同参画室にメールで。 [danjyo@city.kamagaya.chiba.jp](mailto:danjyo@city.kamagaya.chiba.jp)



メールアドレス QR コード

①～⑩を記載したほか、⑪完成した料理の真上からの写真1枚と、調理中もしくは完成品  
を持った申込者の写真1枚を添付。\*1回の送信は3MB以内。



👑 投票で KING OF 「おとう飯」を決定！ 👑

6月15日(水)から6月29日(水)まで、ネット等による投票を行い、上位2名の方に記念品を  
進呈の他、応募者にはもれなく参加賞を、投票頂いた方にも抽選で10名様に景品を進呈します。

【留意点】 提出頂いたデータ等は鎌ヶ谷市へ帰属/1人1点限り/合成や加工した写真は不可/応募頂いたレシピや写真  
は応募者に断りなく情報紙等で公表する場合がある/材料費、通信費等は応募者の負担とする/料理技術を  
競うものではない/以上すべてに同意いただける方。

## 毎年6月23日から29日までは『男女共同参画週間』です！

性別にとらわれず、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女  
共同参画社会」を実現するためには政府や地方公共団体だけでなく、国民のみなさん一人ひとりの  
取組が必要です。

内閣府男女共同参画推進本部は、「男女共同参画社会基本法」の目的や基本理念について理解を深  
めるため、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」としています。

私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

鎌ヶ谷市男女共同参画推進センター(鎌ヶ谷市富岡1-1-3 ショッピングプラザ鎌ヶ谷3階)

TEL: 047(401)0891 FAX: 047(401)0892

Web: [http://www.city.kamagaya.chiba.jp/sesakumidashi/sesaku-danjokyoudo/danjo\\_center/](http://www.city.kamagaya.chiba.jp/sesakumidashi/sesaku-danjokyoudo/danjo_center/)

開所時間: 午前9時～午後10時(施設休所日を除く)

※月～金曜日の午後4時以降および土・日・祝日は職員不在